

『長門市新庁舎の顔づくり』

ヒアリング会

報告書



平成 28 年 7 月

長門市

1. はじめに

長門市では、平成28年3月に策定した「長門市庁舎建設基本計画」に基づき、平成31年度の供用開始に向けて、現在、基本設計の取りまとめを進めております。

新庁舎の設計にあたり、庁舎の顔である玄関部分については、市民に広く親しまれる空間として、地元産材を活用することにより木造・木質化を図り、木のぬくもりや安らぎが感じられる多くの市民が集う憩いの場としたいと考えております。

本ヒアリング会は、この『新庁舎の顔づくり』の検討にあたり、市民の皆様の声をお聴きし、一緒に考える場を設けるために開催し、市内の林業関係者、建築関係者、文化関係者、行政関係者など幅広い分野からご参加いただきました。

このヒアリング会で得られた貴重なご意見やご提案は可能な限り、設計に反映してまいりたいと考えています。

2. ヒアリング会の構成及び運営

■ワークショップは参加される市民の方々を2つのグループで編成し、それぞれに進行役となるテーブルコーディネーター1名、市職員を1名配置し、スムーズなテーブルワーキングに勤めます。

構成メンバー

A班：岩本佳江・近藤友宏・古谷正次・田原崇雄・今澄頼之
B班：伊藤直也・流田壽雄・福田靖・松本悟・岡孝喜

3. スケジュール

■スケジュール

日時：平成28年6月10日（金）19：00～

場所：長門市市役所3階会議室

I. オリエンテーション

（設計概要説明）

II. ヒアリング会

（テーブルワーキング）

III. 報告

（各テーブル報告）

IV. 終了

4. ヒアリング会過程

I. オリエンテーション

- テーブルワーキングに入る前に、長門市新庁舎の現段階での基本設計の概要を説明し、新庁舎の『顔づくり』に理解を深めて頂きました。



II. ヒアリング会

- 設計概要の説明後、2グループに分かれてテーブルワーキングを行いました。
参加された皆様の経験や技術に基づいた多くのご意見、ご提案を頂き、大変貴重で充実した時間となりました。



Ⅲ. 報告

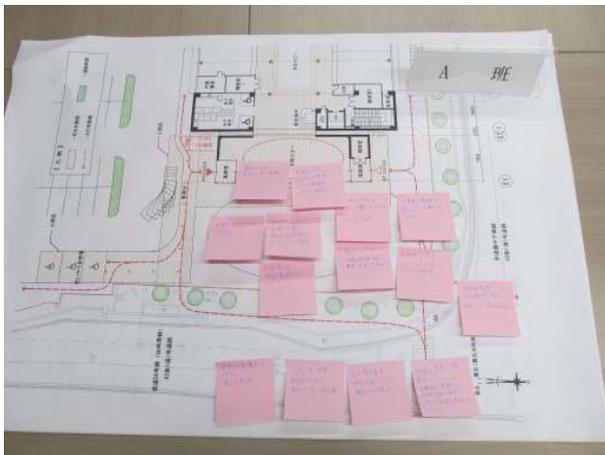
■ グループでまとめた内容を発表していただきました。

グループごとに市民に開かれる場所としての在り方・技術提案などをまとめ、テーブルコーディネーターがその成果を報告しました。

【A班】



【B班】



5. ヒアリング会成果

A

班 メンバー：岩本佳江・近藤友宏・古屋正次・田原崇雄・今澄頼之

木材の活用について

- かまぼこ板等、子供たちを対象に木の活用に関するワークショップを行い、それを部材として何か表現する。
- 工事中に発生する廃材を使って工作物を作る。
- 木を使って何か表現する。一つ一つ、作成に協力した市民や子供たちの名前を記念に残す。
(庁舎に対しての思い出や思い出が出来る)
- シイの木は長門市に広く分布しており、全国的にも多いので活用すべき。
また、薪としての材料に適している事が証明されている。

素材の活用について

- 萩焼で作製した焼き物タイルを使ってレリーフ表現。
- 壁面を利用し、長門の文化を表現。

■キーワード（焼き物、レリーフ、文化表現）

市民利用・交流について

- 市民ロビーは、子供たちの発表の場として活用したい。
- お年寄りが集えるスペースになるとよい。
- 市民ロビーの階高を高くし、建物とのバランスを取ってみてはどうか。
- 本庁舎に対して、市民ロビーが狭いのではないか。
- 家族で入れるトイレや子供用の便器があるなど、トイレの多様化に対応してほしい。
- 工事期間中等、子供たちに工事現場の見学会を行う。

■キーワード（子供からお年寄り、交流の場）

展示について

- 華道・茶道・写真・木育 etc の活動団体の作品を定期的に更新して展示できるスペースがよい。
- 展示パネルは FK パネルではなく、木製のパネルにし、空間デザインに溶け込んだものがよい。

■キーワード（長門の情報発信、展示物による空間デザイン）

回廊の活用について

- 回廊を木組みで長門の文化を表現する。(イワシの群れ・クジラの骨組み)
- 回廊をロの字型にし、中央を公園化する。
回廊には、長門・油谷・日置・三隅の文化を展示する。

■キーワード (木組み・文化表現)

市民広場の活用について

- 広場は大きく軒下として、屋根の中での広場を設ける。
- 噴水を設け、クジラの潮吹きや竜宮の潮吹きをイメージできるようにする。
- 学校帰りや休日にも遊べるように公園化したい。
- 屋上広場を設ける。
- せっかく吹抜けがあるので、屋外の一定の位置から建物を眺めると
『市民広場～市民ロビー～吹抜け空間』の関係性にストーリーが伺えると良いのでは。
- 玄関が西向きになっているが、駐車場からの誘導線を考えると、庁舎の顔は北側となるのでは。
- 広場としての利用が出来るなら、子供の身体を拭く等に対して、
水やお湯が自由に使えるような整備をしたらよい。
- 市有林 (シイの木) を使いアートとしてのジャングルジム化する。

■キーワード (関係性・公園化・木材活用・軒下空間『包む』)

災害時の対応について

- 木質化を図った材料は、災害時に薪として活用できるようにする。

■キーワード (木組み・文化表現)

B

班 メンバー：伊藤直也・流田壽雄・福田靖・松本悟・岡孝喜

木材の活用について

- 樹木をそのまま生かしたオブジェを設けたらよい。
- 木壁画を飾る。それを仕上げ材として壁一面につくる。内容は長門市の観光名所などにする。
※木壁画：木片の色や木目を生かし、組み合わせて作る木の絵
- 市有林材は、節が多いので内装材で活用するときは、木の色や節の数などを考慮してレイアウトした方がよい。
- 木を見せることはよいことだが、木視率は、40%が最も効果があるといわれており、それを超えると圧迫感が出るので配慮すべき。
※木視率：空間に対する木の見え掛かりの割合

■キーワード（木のオブジェ・工夫・心地よさ）

左官材の活用について

- 山口大学が提案したエネマネハウスで使った土壁（珪藻土）は、日中は熱を吸収し、夜間は熱を放出するので活用してみてはどうか。南面に設けることが効果的。
- 版築の壁が最近流行している。萩市には実例が多い。
※版築：土や石、若しくはそれらと少量の石灰等の混合物で突き固めたもの
- 下関の安養寺のように日干し煉瓦を活用してみてはどうか。ベンチの壁面に使うことも可能。
- ワークショップをおこない市民と一緒に日干し煉瓦を作ってみてはどうか。
- 漆喰の活用もよい。漆喰はCO₂を吸収して固まるのでエコの脱臭効果がある。
原料が貝殻なので、皆で貝殻を集めて漆喰を作ってみるのも面白い。
- 木ばかりでなく、左官材なども組み合わせた空間づくりがバランスがよい。

■キーワード（木と土の組み合わせ・自然素材・市民参加）

市民利用・交流について

- 市民ロビーは子ども連れの親子が遊べる空間としてはどうか。
- 子供のスペースに近接してお年寄りのスペースを設けて交流を促進するとよい。
- 屋上バルコニーから、深川湾などを一望できる空間をつくって、一般開放してはどうか。
- 長門市の美しいものを利用して、装飾してはどうか。
- 若い人がこの市民ロビーや広場でデートできるような空間となればよい。
- 折角建て替えるので、新庁舎は意匠的にきれいなもの、美しいものがよい。

■キーワード（世代を超えた交流の場・市民解放）

展示について

- 市民ロビーの展示スペースにて近松伝承、長門の文化人の香月泰男さん、金子みすゞさん、村田清風さんを発信するコーナーを設ける。
- 金子みすゞさんの詩『大漁』を絵にした中島潔さんの作品（レプリカ）の展示など。
- 市民ロビーに深川窯の焼き物を生かした茶室スペースを設ける。

■キーワード（長門の文化の発信）

回廊の活用について

- バス停・広場・回廊は、一体化したデザインとし、雨に濡れずに利用できる計画がよい。
- 回廊を木組みで波をイメージして造ってみてはどうか。

■キーワード（広場と庁舎の一体化・木質回廊）

市民広場の活用について

- 広場には、子供たちが遊べるような木の遊具や、高齢者が休憩できるようなベンチを設置して、交流の場をつくってみてはどうか。
- 小さなコンサートなどのイベントが開催できる若者が集うような広場がよい。
- メンテナンスは大変と思うが、木の遊具を設置する。
- 木のチップを仕上げ材料と混ぜて、舗装材など、何か利用されてはどうか。
- もみの木は建材として利用が難しいので、半割とし、ベンチとして利用してはどうか。
- 銀杏の木は匂いが出やすいので、トーテムポールのようなオブジェにするとよい。
- 広場に土の顔料を左官材に混ぜたもので、絵や文字を書いて、庁舎の上層階から眺めると解る（地上絵）というのも面白い。
- イベントができるよう広場に電源や水道などを確保すべき。

■キーワード（木質遊具・木材利用・シンボル）

樹木の活用について

- 街路樹をライトアップするようにして、そこに若者が集まる様な空間としてみてはどうか。
- 街路樹等は、庭師さんの意見を取り入れるとよい。

■キーワード（若者利用・職人）

災害時の対応について

- 災害時用水として、災害用の井戸を設ける。
- 市民広場に発電車両など、災害時に車両が入れるようにしておいた方がよい。

■キーワード（ライフラインの提供）

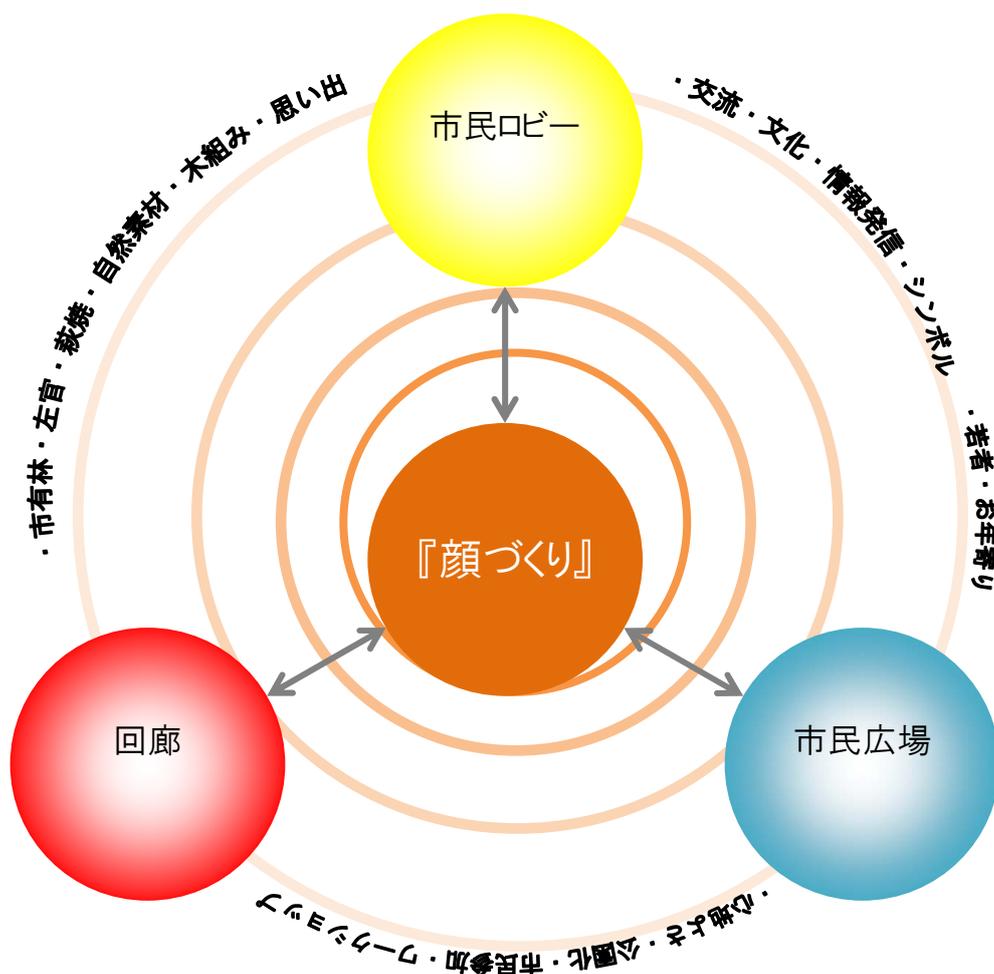
6. まとめ

参加者の皆様から頂いた貴重なご提案から次のキーワードを抽出し、方針としてまとめることができました。

長門市らしい新庁舎の顔づくりを実現するため、この方針に基づき今後の設計に反映していきたいと考えております。

今後とも市民の皆様によく愛される新庁舎の実現に向けて、市民と一体となった庁舎建設に努めて参ります。

本ヒアリング会に参加いただきまして、本当にありがとうございました。



新庁舎の顔づくりに向けた基本方針

- 木組みを用い、長門の文化を表現します。
- 防災時の対応も可能で、市民に広く親しまれ、集える場としてオープンスペースを設けます。
- 地元の素材(土や木)を使って、遊具やベンチなどを整備します。
- ワークショップを行い、子供たちと一緒に作り、思い出となる公園を目指します。
- 緑地帯を設け、だれもが心地よい場所となるようにします。